



故名誉会員 第 36 代会長 岩沢忠恭先生をしのぶ

参議院議員従三位勲二等，土木学会名誉会員，第 36 代会長 岩沢忠恭先生は，昭和 40 年 12 月 8 日腎炎のため慶応病院で逝去されました。誠に痛恨哀惜の極みであります。

先生は明治 24 年 6 月，広島市にご誕生，大正 7 年 7 月，京都帝国大学土木工学科をご卒業後，内務省に奉職，同 10 年，内務技師に任ぜられ，昭和 11 年，東京土木出張所兼横浜土木出張所勤務となられ，第二京浜国道および荒川改修の工事を担当せられました。

昭和 17 年，内務省国土局道路課長となられ兼ねて技術院，土木会議，科学技術審議会等にも幹事または委員として参画せられました。

昭和 18 年，防空総本部土木課長として防空全般のことに活躍せられましたが，同 20 年 4 月，関東土木出張所長となられ，終戦と同時に内務省国土局長兼内務技監として废墟と化した戦災の復興と，相次ぐ台風による水害の復旧に当たられることになりました。

昭和 22 年末内務省は解体され，国土局と戦災復興院とは合体して建設院となるや，衆議をになって昭和 23 年 1 月，建設院技監となられ，ついで同 23 年 7 月，建設省が設置されるや初代の建設事務次官兼建設技監となられました。

先生はこのご経歴のように実に戦後の建設行政の転換期にあつて，その中核となつて活躍せられ，国土の復興と再建に渾身の努力を傾けられ，今日の国土開発躍進の基礎を確立せられたのであります。

昭和 25 年 3 月，退官せられるや推されて第 2 回参議院議員選挙に全国区で見事ご当選，さらに同 31 年 7 月，再び参議院議員として全国区でご当選，37 年 7 月には広島地方区よりご出馬見事ご当選，今日に至る 15 年余を参議院議員として国政に参画せられ，この間参議院自由党政策審議会議長，自民党相談役，参議院予算委員長，同建設委員長，自民党総務会副会長等を歴任され一途に建設行政の発展のために尽力せられたのであります。

また昭和 22 年には日本道路協会の会長に就任，23 年には土木学会の第 36 代会長に就任され，38 年には土木学会名誉会員に推挙せられたのであります。このほか全国治水期成同盟会連合会，日本測量協会，全国測量業協会，日本蛇籠協会の各会長，日本河川協会の副会長等を併任せられたのであります。

また在官中土木行政・技術を調査研究するため，欧米各国へ出張，昭和 36 年 2 月にはシドニーで開催された国際道路連盟太平洋地域会議に日本政府代表として出席され，39 年 4 月に東京で開催の同会議に力を致されたのであります。

先生のこの偉大なる多くの足跡は戦前戦後を通じて実に 50 年にわたっており，偉大なる技術者として，また清廉高潔なる政治家として生涯を一筋にわが国土の建設開発に献身せられたのであり，昭和 40 年 4 月には勲二等旭日重光章を授与され，逝去にともない従三位に叙せられました。

また先生は生来子弟の指導と育成に情熱を傾けられ，先生のご薫陶，ご恩恵に浴した人々は全国にあまねく国土建設の第一線に活躍して，先生の徳を敬慕し，ご病氣ご快癒を祈念していただのであります，突然のご他界は痛惜にたえなえところであります。

40 年 12 月 15 日には日本道路協会葬が青山葬儀所で行なわれ，政界，官界，民間等各方面の会葬者相つぎ先生のご功績，ご遺徳の偉大さを今更痛感させられたのであります。

ここに先生のご業績の一端を追憶して，謹んでご冥福を祈る次第であります。